

DAIDO

CAMPUS

特集

卒業生インタビュー ほか



梶浦魁斗さん(情報デザイン学科)

ポスターデザインコンテスト2022において最優秀賞を受賞しました

「ハブラシ・リサイクルプログラム ポスターデザインコンテスト2022 ～ハブラシ・リサイクルプログラムを多くの人に伝えよう～」の一般部門において、情報学部 情報デザイン学科 原田研究室 4年 梶浦魁斗さんが卒業研究の一環として制作したARポスターが最優秀賞を受賞しました。

ポスターデザインコンテスト2022

入賞者発表はこちら

<https://www.lion.co.jp/ja/sustainability/toothbrush-recycling/poster-design/contest2022/>



▲受賞した梶浦さん

永井颯真さん(建築学科 インテリアデザイン専攻)

第26回エネルギー住宅作品コンテストで受賞しました

第26回エネルギー住宅作品コンテストで工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 萩原研究室 3年 永井颯真さんが、審査員特別賞を受賞しました。

今回永井さんは、授業のセミナーの中で紹介・解説された書籍「アーキアリング・デザイン展 テクノロジーと建築デザインの融合・進化」に興味を持ち、その内容にインスパイアされて設計案をまとめました。

第26回エネルギー住宅作品コンテストHPはこちら

<https://www.energia-support.com/contest/gaiyo2022/index.html>

受賞作品の詳細はこちら

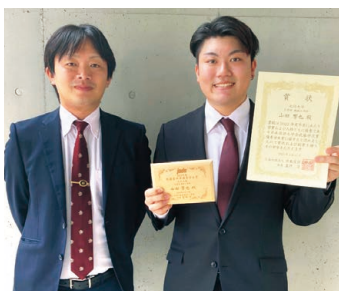
<https://www.energia-support.com/contest/2022/index.html>



山田響也さん(機械工学科)

武藤栄次賞を受賞しました

工学部 機械工学科 萩野研究室 4年 山田響也さんが設計に関連する科目において、優秀な成績を修め、公益社団法人日本設計工学会の武藤栄次賞を受賞しました。



▲受賞した山田さん(右)と指導教員の萩野将広講師(左)

久保則文さん、西館光紀さん、水野和也さん、前田和浩さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

日本金属学会にて研究発表を行いました

3月8日(水)～10日(金)、東京大学駒場キャンパスで、第172回日本金属学会春期講演大会が行われました。

講演大会には、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 高田研究室 1年 久保則文さん、西館光紀さん、水野和也さん、前田和浩さんが参加し、研究成果の口頭発表を行いました。

このうち、久保さんの発表は名古屋大学 工学部との共同研究の成果です。また、水野さんの発表内容は名古屋大学 工学部、未来材料・システム研究所とあいしシンクロトロン光センターとの共同研究の成果の一つであり、名古屋大学から2件(口頭とポスター)と工学部 機械工学科 高田健教授から1件(口頭)の以下の発表とあわせて行われました。

研究発表のテーマは以下の通りです。

◆久保さん発表テーマ

「オーステナイト系ステンレス鋼における引張変形中の電気抵抗率振動」

◆西館さん発表テーマ

「Al-Mg合金のセレーションと電気抵抗率振動の対応関係」

◆水野さん発表テーマ

「アルミニウム合金における等温析出挙動-DSC測定」

◆前田さん発表テーマ

「パラジウム中水素の電気抵抗率への影響」

◆名古屋大学

「低温時効したAl-Mg-Si合金中のクラスタ形成過程のマルチスケール分析」

「アルミニウム合金における等温析出挙動-STEM観察&EDS分析」

◆高田教授

「アルミニウム合金における等温析出挙動-SAXS測定」



◀発表を行った4人

濱野翔太郎さん、吉田拓司さん(機械工学科)

日本機械学会 第54回学生員 卒業研究発表講演会 TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2023 (TEC23)で研究発表を行いました

3月7日(火)、オンラインで日本機械学会 第54回学生員 卒業研究発表講演会 TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2023 (TEC23)が開催されました。

本講演会で、工学部 機械工学科 坪井研究室 4年 濱野翔太郎さん、吉田拓司さんが研究発表を行いました。

研究テーマは以下の通りです。

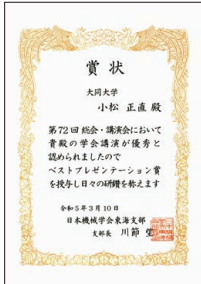
◆濱野さんの研究テーマ

「着氷現象における氷表面での単一液滴の衝突挙動に関する研究」

◆吉田さんの研究テーマ

「凸型テクスチャを用いた摺動面において発生するキャビテーションの流体潤滑特性に与える影響についての数値的研究」

小松正直さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻) 日本機械学会 東海支部 第72期講演会 TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2023 (TEC23)で ベストプレゼンテーション賞を受賞しました



3月8日(水)～10日(金)、オンラインで日本機械学会 東海支部 第72期講演会 TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2023 (TEC23)が開催されました。

この講演会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 坪井研究室 小松正直さんが研究発表を行い、ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。

小松さんは「カヌー競技用パドルのパドリング時における流れのシミュレーション」というテーマで発表を行いました。

日本機械学会 東海支部 第72期講演会
TOKAI ENGINEERING COMPLEX
2023 (TEC23)のHPはこちら

<https://www.jsme.or.jp/event/2022-142097/>



嵯峨功大さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻) 日本金属学会第172回公演大会 にて研究発表しました

3月7日(火)～10日(金)、東京大学で開催された日本金属学会第172回講演大会にて、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 田中研究室 嵯峨功大さんが研究発表を行いました。

当日は100以上のポスターと数百人が参加して活発な討論が行われました。

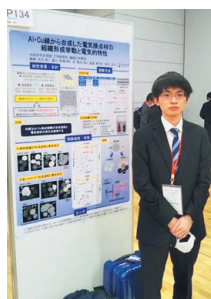
嵯峨さんは、「AI・Cu線から合成した電気接点材の組織形成挙動と電気的特性」というタイトルで発表を行い、近年増えつつある電氣的接合部に関し、アルミ銅の接合組織についての基礎研究内容を報告しました。

銅(Cu)やアルミニウム(AI)は電気を良く伝え、電池などの電極材料として欠かせません。この二つの金属を溶接すると、多くの金属間化合物(IMC)が現れ脆くなるばかりか、電気抵抗の高いIMCが膜状に形成されると電極として好ましくありません。IMCを抑制するため室温接合を検討されていますが、狭い場所での施工性はレーザー溶接が抜群に優れているため、もっと害のない形態のIMC組織を探求しています。

今回は、 Al_2Cu というIMCが細かく分散した組織を持つ接点材料をAI線とCu線から造り出し、その形成過程と電気抵抗との関係を考察しました。今後、電氣的、機械的に理想的な接合組織の形態を明らかにし、新しいレーザー接合法の提案につなげていきます。

日本金属学会の関連ページはこちら

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jim2023spring/subject/1PS135-144-03/tables?cryptold=>



▲研究発表した嵯峨さん

伊藤嘉基さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻) (公社)日本設計工学会 武藤栄次賞を受賞しました



▲受賞した伊藤さん

3月17日(金)、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 宮本研究室 2年 伊藤嘉基さんが設計に関連する科目において優秀な成績を収め、かつ設計工学に関連する資格も習得、設計工学の発展に寄与したとして表彰されました。

大橋侑奈さん(建築学科 インテリアデザイン専攻) 「CIP学生賞」に 卒業設計作品が選出されました

中部インテリアプランナー協会(CIP)が主催する「CIP学生賞」に工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 中島貴光研究室 4年 大橋侑奈さんの卒業設計作品「SHI-KI ―一宮市本町商店街における色彩空間の提案―」が選出されました。

CIP賞は中部インテリアプランナー協会が主催する、おもに中部地域の学生の卒業設計作品を対象としたものです。

今回のCIP学生賞受賞作品は、6月発刊の「CIP情報誌」に掲載され、CIP通常定期総会の会場にて作品パネルとともに発表されました。



▲大橋さんの作成したパネル

若園康行さん(大学院 工学研究科 情報学専攻) Nagoya Musubu Tech Lab デザインセミナーで発表を行いました

3月16日(木)、名古屋市工業研究所で「Nagoya Musubu Tech Lab デザインセミナー」が開催され、大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 2年 若園康行さんが、情報デザイン学科 舟橋慶祐准教授とともに登壇し発表を行いました。

若園さんは、「伝統的な素材に挑戦し、新しい素材は丁寧に扱う」というテーマで、産学連携「瓦猫プロジェクト」で商品化したペットハウスについて成果発表をしました。



▲発表を行った若園さん(左)と舟橋慶祐准教授(右)

情報デザイン学科

サウンドアートコンサートを実施しました

2月24日(金)、千種文化小劇場で情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻の学生によるサウンドアートコンサートを実施しました。

このコンサートでは、コンピュータサウンドや映像、パフォーマンスによる作品を一堂に集め上演しました。



▲朗読劇「最低裁判所」小島研究室3年生



▲演劇「No.3の脱獄囚」
演劇同好会、今野浩明さん



▲司会者と小島教授の幕間対談風景



▲サウンドアート「SynthesisStyle」
柴田柚月さん



▲サウンドアート「MOJITO distortion」
小川公希さん



▲朗読劇「最低裁判所」
小島研究室3年生

伊藤僚准教授(総合情報学科 スポーツ情報コース)

書籍「人間の許容・適応限界事典」の一部を執筆しました

2022年11月1日(火)発行の書籍「人間の許容・適応限界事典」(村木里志・長谷川博・小川景子 編著、朝倉書店)の一部を、情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コース 伊藤僚准教授が執筆しました。

この書籍は人間の能力の限界を生理/感覚/心理/知能・情報処理/運動/生物/物理・化学/生活・健康/テクノロジー/栄養といった多分野の研究結果から解説した学術書です。伊藤僚准教授は、第七章 物理・化学・環境の『雨風と運動』の執筆を担当しました。

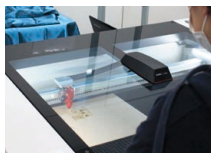
中島貴光教授(建築学科 建築専攻 / インテリアデザイン専攻)

大府市 大学等連携講座「おおぶアカデミー」の講師を務めました

3月4日(土)に本学にて、大府市の大学等連携講座「おおぶアカデミー」として、「小さな照明器具を作ろう」をテーマに、ものづくり体験講座が開催されました。講座では、Adobe Illustratorを用いて照明器具のシェードをデザインし、作成したデータからレーザー加工機にて木材加工を行い、小さな行燈を製作しました。参加者からは、「最初は不安な気持ちだったが、講師の方々のお陰で問題なく楽しく受講できた。」「イラスト等準備されていたので選びやすかった。」「レーザー加工がすごかった。」などの声が寄せられました。



▲講座の様子



▲レーザー加工機での
木材加工の様子



▲完成した照明器具

山田靖教授(電気電子工学科)

月刊車載テクノロジーに寄稿しました

工学部 電気電子工学科 山田靖教授が、技術情報協会の月刊車載テクノロジーに寄稿しました。

山田教授が寄稿したのは、電子デバイス、車載向け放熱材料の開発動向と熱対策の中の「パワーデバイス実装用高放熱グラファイト」で、グラファイトの物性、熱特性、および信頼性などについて解説しました。



大東憲二教授(現:特任教授)

(総合情報学科 経営情報コース)

最終講義が行われました

2023年3月をもって定年退職された情報学部 総合情報学科 経営情報コース 大東憲二教授(現:特任教授)の最終講義が2月23日(木・祝)X棟0202教室で行われました。

大東教授は1996年4月に大同工業大学 工学部 建設工学科に助教として着任され、工学部 建設工学科で5年間、工学部 都市環境デザイン学科で11年間、情報学部 総合情報学科で11年間、合計27年間、大同工業大学と大同大学にて研究・教育に携わられました。

最終講義では「大同工業大学と大同大学での教育と研究を振り返って」という題目で、これまでの地盤沈下防止や地下水管理に関する調査活動や研究成果、指導してきた学生の卒業論文などについて解説されました。最終講義には教職員、卒業生、在学生、研究者など93名が出席し、講義終了後には花束と記念品が大東教授に贈られました。

大学の発展に多大なる貢献をされました大東教授に深く感謝の意を表し、そして大東教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。

授業の様子はこちら(YouTube動画)

<https://youtu.be/upgFQE3gl0Q>



▶講義の様子

山田靖教授(電気電子工学科)

専門図書の執筆をしました

工学部 電気電子工学科 山田靖教授が、技術情報協会の専門図書「次世代半導体パッケージの最新動向とその材料、プロセスの開発」の執筆をしました。

山田教授が執筆したのは、第4章第7節の「パワー半導体用銅ナノ粒子接合技術と特性評価」です。パワー半導体の実装に用いるCuナノ粒子接合について、熱特性や信頼性について解説しました。また、接合材料の特性評価法についても述べました。



大東憲二特任教授

UNESCO主催「第10回地盤沈下に関する国際シンポジウム (TISOLS)」で講演しました

4月17日(月)～21日(金)、オランダのデルフトとゴータで開催された「第10回地盤沈下国際シンポジウム (TISOLS)」で、大東憲二特任教授が講演しました。「第10回地盤沈下国際シンポジウム (TISOLS)」は、当初2020年4月に開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大のために3年延期されていました。

今回のシンポジウムのテーマは「Living with Subsidence (沈下と共に生きる)」です。このシンポジウムは、UNESCO IHP「地盤沈下国際イニシアチブ (LaSII)」の後援の下で開催されています。このグループは、1970年代から、地盤沈下に関する国際シンポジウム、共同プロジェクト、出版物を通じて、地盤沈下に関する知識の向上と普及に努めてきました。

地盤沈下は、世界中の何百万人もの人々、特に高度に都市化された沿岸地域等の生存可能性と持続可能な経済発展を脅かす大きな問題です。それは、しばしば地下水資源の過剰開発の結果です。世界の総コストは年間数十億ドルに上ります。

地盤沈下を減らす、または停止させるには、新しい革新的な技術とアプローチが必要です。TISOLSでは、国際的な専門家が集まって、自然および人為的な地盤沈下に関する最新の研究と考察を共有しました。TISOLSでは、地盤沈下、信頼できるデータ、革新的な技術に関する理解を共有するためのプラット

フォームを提供しています。最終的には、地盤沈下問題の認知度を高め、沈下地域における長期的で持続可能な生活条件のための的を絞った戦略と解決策を考案することを目指しています。これは、TISOLSで、水文学、地質工学、地質学の知識を政策や社会的に受け入れられる解決策に結び付けることにある課題に取り組むことを意味します。

大東特任教授は、UNESCO IHP「地盤沈下国際イニシアチブ (LaSII)」のメンバーであり、2015年11月に名古屋で開催された「第9回地盤沈下に関する国際シンポジウム (NISOLS)」の実行委員長でした。今回のシンポジウムでは、LaSIIのメンバーとしてTISOLSの開催に協力するだけでなく、ポスター発表で、「Role of The Tokai Three-Prefecture Investigation Committee on Land Subsidence in The Nobi Plain」を発表し、口頭発表で、「Management of groundwater in the Nobi Plain that modeled groundwater use for earthquake disasters and environmental preservation」を発表しました。

大東特任教授の口頭発表は、YouTube動画で公開されています。
<https://www.youtube.com/watch?v=tQYpHR2tWxk>



▲口頭発表をしている大東特任教授



光田恵教授(建築学科 かわりデザイン専攻)

書籍「WOC Nursing 第106号 特集:排泄物のおいケア ~においの基礎知識と対策~」の企画編集を担当しました

2月に工学部 建築学科 かわりデザイン専攻 光田恵教授が企画編集した書籍「WOC Nursing 第106号 特集:排泄物のおいケア~においの基礎知識と対策~」が発行されました。

本特集では、室内の空気環境の一要素として「におい」、とくに「排泄物臭」に焦点をあて、室内環境の質的保全・向上の視点からその対策を考え、解説・紹介しています。光田教授は企画編集だけでなく、第6章の執筆も担当しています。

また、第2章では岩橋尊嗣 元教授、第8章では近藤早紀非常勤講師(2022年3月 工学部 建築学科 博士後期課程 材料・環境工学専攻 修了)がそれぞれ執筆を担当しています。

書籍の情報はこちら

http://www.igaku.co.jp/wocnursing/wocnursing_2302.html



宮本潤准教授(機械工学科)

専門図書「プラズマ産業革新技術」を共著で執筆しました

シーエムシー出版より刊行された本書は表面処理、材料、環境、農業、医療、バイオまで様々な領域で産業応用が広がっているプラズマ技術の開発の進展がまとめられています。

プラズマ科学技術に造詣の深い、研究開発の第一線で活躍中の技術者や研究者が執筆者となっており、現在並びに未来の産業を革新するプラズマ応用技術の近年の進展と動向を知る1冊となっています。

工学部 機械工学科 宮本潤准教授は「第2章材料分野への応用第5節真空および大気圧中における銅のプラズマ酸化処理法の開発」の執筆を担当しました。

田中宏昌教授(教養部)

研究論文が Nature Synthesis 誌に掲載され、東京大学・九州大学との共同プレスリリースが行われました

教養部 化学教室 田中宏昌教授の研究論文が、国際論文誌「Nature Synthesis」に掲載され、共同研究先である東京大学および九州大学と共同プレスリリースが行われました。

内容は、「理論計算に基づいて設計された、超高活性アンモニア生成触媒の開発に成功した」ものです。窒素ガスと水を用いたアンモニア合成反応(窒素固定反応)において、従来の触媒活性の世界最高記録をアンモニア生成量で15倍、生成速度で7倍更新しました。この触媒は、反応機構を精査したうえで、コンピューターシミュレーションにより分子設計されたものです。本研究において、田中教授はその分子設計を担当しました。

◆Nature Synthesis誌の関係Webページはこちら

<https://www.nature.com/articles/s44160-023-00292-9>

◆共同研究の詳細はこちら

<https://www.tu-tokyo.ac.jp/hubfs/press-release/2023/0418/001/text.pdf>

◆東京大学・九州大学のプレスリリースはこちら

<https://www.tu-tokyo.ac.jp/press/pr2023-04-18-001>

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/912>

◆関係記事はこちら

日本経済新聞

https://www.nikkei.com/article/DGXZRS653171_T10C23A400000/

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC216M70R20C23A400000/>

日刊工業新聞

<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00669952>

Yahooファイナンス

<https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/a06c234f09039b02eaebd0d5f5c8481f8671a746>



澤岡昭名誉学長

ニッポンの宇宙探査最前線をテーマに講演しました

2月18日(土)、知多中央図書館で澤岡昭名誉学長が『ニッポンの宇宙探査最前線～「はやぶさ2」の成果と月着陸計画～」と題して講演しました。講演の前半では、探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」から持ち帰った



▲講演の様子

鉱物に生命の源であるアミノ酸が含まれていたこと、鉱物結晶中に水が存在したこと、さらには、澤岡名誉学長がこれまで発表した論文から推定したリュウグウ誕生のシナリオも紹介されました。後半では、月に存在する水資源を求めた国際競争が始まっていること、アメリカとの良好な協力体制のもと、将来、日本人宇宙飛行士が月へ上陸する可能性もあることなどが紹介されました。講演では、質問の時間も設けられ、木星などのガス惑星はどのような物体なのか?などの質問に澤岡名誉学長が丁寧に答えられていました。

教育開発・学習支援センター

FD講演会を開催しました

3月6日(月)、2022年度FD講演会を開催しました。今回の講演テーマは『見やすい講義スライドや資料の作成』で、情報学部 情報デザイン学科 桐山岳寛講師が講演を行いました。デザインの専門家である桐山講師は、レイアウトや色彩などデザイン学の基礎的な考え方から、発表スライドや配布資料をわかりやすくするためのコツを紹介してくれました。このような知識は、対面授業はもちろん、遠隔やハイブリッドなどでわかりやすい授業をするのに役立つものです。

オンラインで行われた講演会には、120名を超える多くの参加申込がありました。より良い教育と授業を学生に提供するために、大同大学の先生達も日々勉強しています。

大同高校文化部合同作品展が開催されました

3月8日(水)～14日(火)、本学のB棟1階丸善前学生ホールで大同高校文化部合同作品展が開催されました。今年度は大同高校の吹奏楽部、ダンス部、写真部、美術部、漫画研究部、バルーンアート部の大学祭への参加・出店から始まり、本作品展も高大連携の行事の一つとして注目されています。この合同展示は、写真部、美術部、漫画研究部、クリエイティブ部の文化部と情報デザインコースの3年生、卒業生によるものです。展示の受付には、この春大同高校を卒業し、今後デザインの道に進路を定めた卒業生たちの姿が見られました。

大同高校でどんな生徒が育っているか、どんな勉強をしてきたか、その成果と将来の期待を感じられる温かみのある作品展となっており、一部作品の販売もおこなわれました。

東海テレビ「チャーじ」の取材を受けました

3月9日(木)、本学の学生食堂について東海テレビ「チャーじ」の取材を受けました。

学生室の堀木さんが取材に応じ、普段の学生食堂について説明しました。

東海テレビ「チャーじ」の公式サイトはこちら
<https://tk.tokai-tv.com/charge/>



▲取材時の様子

澤岡昭名誉学長

日本の次期主力ロケットH3打上げ失敗をテレビ番組で解説しました

補助ロケット点火直前に打上げ中止になった2月17日(金)、1段目が飛行し、2段目が作動しなかったため指令破壊された3月7日(火)、午前と午後に出発失敗について、澤岡昭名誉学長がTBSテレビ(東京)の報道番組「ひるおび」に出演し解説しました。愛知県ではCBCテレビから放映されました。

▶スタジオ風景澤岡名誉学長(右)



神保睦子元学長

3/27(月)毎日新聞朝刊に記事が掲載されました

3月27日(月)、毎日新聞(朝刊)に神保睦子元学長の記事が取り上げられました。記事においては、2023年3月をもって任期満了となり退任される神保元学長のこれまでの取り組みが掲載されています。

神保元学長は理工系に進学する女子生徒に向けて「周りのいろいろな考えに左右されず、自分が面白いと思うことをやり続けて。」と述べています。

Innovation Fab LAB同好会

柴田商店街の子供たちにオリジナルコースターづくり教室を開催しました



▲オリジナルコースターづくり教室の様子

3月28日(火)、大同大学のB棟1階の展示室にあるInnovation Fab LABと呼ばれるワークスペースでInnovation AI LAB同好会のメンバーが、柴田商店街の子供たちにレーザー加工機で作るオリジナルコースター教室を開催しました。小学校高学年から高校生の計5名の生徒たちが参加しました。参加した生徒たちはデザイン通りの物を作り上げることができ、楽しそうにしていました。

女子新入生向けの防犯セミナーを実施しました

4月6日(木)、本学のゴビーホールで女子新入生を対象にした防犯セミナーを愛知県警察署と共同で開催しました。

本セミナーは、安心・安全な大学生活を送ってもらえるように本学演劇同好会が寸劇を披露し、それを警察官が解説しました。



▲防犯セミナーの様子

備一真さん(2019年度卒業 総合情報学科 経営情報専攻)

日本代表に選出され、月刊バレーボールに掲載されました

4月7日(金)、2023年度バレーボール男子日本代表チームの登録メンバーが発表され、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻(現:総合情報学科 経営情報コース)2019年度卒業生 備一真さんが選出されました。

備さんが現在所属するVC長野トライデンツから、日本代表に備さんを含む3人が選出され、実施した座談会の内容が月刊バレーボールに掲載されました。座談会の中で代表活動への意気込みなどを話っていました。



新入生交流イベントを開催しました

4月8日(土)、9日(日)の2日間、本学で新入生交流イベントが開催されました。キャンパス全体を使った謎解きゲームで、新入生はチームに分かれ、ドラゴンに捕らえられたプリンセスを救うために必要な呪文を解き明かします。新入生は各学科・専攻の先輩サポーターが用意したアクティビティに挑みながら、謎解きのためのヒントを探しゴールまでたどり着きました。アクティビティでは各学科・専攻の学びに関連した内容が盛り込まれ、さらにたくさんのコミュニケーションを取れるよう工夫されており、学びを身近に感じながら、新入生同士の仲が深められました。



▲謎解きに挑戦する新入生 ▲先輩が用意したアクティビティに参加している新入生 ▲アクティビティに参加後、賞品を選ぶ新入生

渡邊慎一学長

大学・教育関連専門のニュースサイト『大学ジャーナルオンライン』にインタビュー記事が掲載されました

研究成果や産学連携の取り組みなど大学に関わるニュースやインタビューを発信する大学・教育関連専門のニュースサイト『大学ジャーナルオンライン』に渡邊慎一学長のインタビュー記事が掲載されました。記事の中で渡邊学長は、2020年に策定した行動指針「DAIDO VISION 2030」に基づく合い言葉「自分が変わる、未来を変える。」に思いを託し、できることから一歩ずつ、大学改革を進めていきたいとの考えを表明しました。

また、2024年に新設する建築学部についても、これまでの建築学科の枠組みを超えた総合的な学問領域としての建築学の拠点としていきたいと語っています。

掲載記事はこちら

<https://univ-journal.jp/column/2023218588/>



沖村達也さん(2021年度修了)、庄司篤志さん、清水優さん、米藤俊哉さん(2022年度卒業)、不破勝彦教授(情報システム学科)

『電気学会論文誌C』8月号に共同論文が掲載されます

一般社団法人 電気学会が発行している『電気学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌)』8月号(Vol. 143 No. 8)に、情報学部 情報システム学科 不破勝彦教授と、本学の卒業生である沖村達也さん(2021年度修了)、庄司篤志さん、清水優さん、米藤俊哉さん(2022年度卒業)が投稿した論文「外乱オブザーバを用いた準強安定化補償器の一考察」の掲載が決定しました。本論文は、2022年度卒業研究で発表された内容をまとめたものです。

外乱オブザーバを制御対象に対する直列補償器として表現すると、外乱

オブザーバは安定であっても同補償器は不安定になることがあります。その際、観測出力の信号線が断線すると見かけ上不安定な開ループ系になり、応答の劣化を引き起こしてしまいます。論文では、外乱を抑制するだけでなく、保全性を改善するため断線が生じて制御系が不安定にならないようにするための外乱オブザーバの設計法を与えました。そして、断線しても応答が劣化しないことを実証し、提案する設計法の有効性を示しました。

原田悠翔さん(2022年度卒業 建築学科 建築専攻)

日本建築学会主催「第64回全国大学・高専卒業設計展示会」で展示されます

一般社団法人 日本建築学会が主催する「第64回全国大学・高専卒業設計展示会」で、工学部 建築学科 建築専攻 船橋仁奈研究室 卒業生 原田悠翔さんの卒業設計作品「風が吹けば兼山が儲かる」が展示されます。本展示会は、全国の大学・短期大学・高等専門学校など建築系学科で2022年度に行われた卒業制作の中から、優秀作品を展示するものであり、全国30会場を巡回します。名古屋では11月28日(火)～12月3日(日)まで、公益社団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センターにて開催される予定です。

以下、原田さんの作品コンセプトです。

「風が吹けば桶屋が儲かる」とは、ある事象の発生により、一見すると全く関係がないと思われる場所・物事に影響が及ぶことの喩えです。岐阜県可児市兼山はかつて商業地として栄えましたが、現在は街並みにその痕跡が断片的に残るのみであり、過疎化が進む一方のエリアです。私は、一見すると関係を持たない兼山の要素を寄せ集め、それらを縫い合わせるような建築を計画しました。兼山に風が吹けば、涼しい風がめぐり、人々が集まり、賑わいを生んでいきます。今ある兼山の資源を活用し、人々の日常生活にフィードバックしていくことで、新たな兼山の地域コミュニティを生み出そうとする試みです。

日本建築学会「第64回全国大学・高専卒業設計展示会」
 出展作品リストはこちら

https://www.aij.or.jp/sotsuten_2023.html

巡回展はこちら

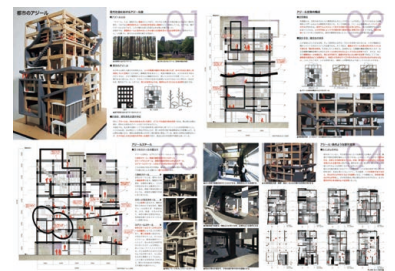
<http://news-sv.aij.or.jp/sotsuten/2023/2023.pdf>



山岡敬汰さん(2022年度卒業 建築学科 建築専攻)

第54回「毎日・DAS学生デザイン賞 空間デザイン部門」で入選しました

毎日新聞社・一般社団法人総合デザイナー協会が共催する「第54回毎日・DAS学生デザイン賞 大学生の部 空間デザイン部門」で、工学部 建築学科 建築専攻 船橋研究室 卒業生 山岡敬汰さんの卒業設計作品「都市のアジュール」が



▲山岡敬汰さんの卒業設計作品「都市のアジュール」

入選を果たしました。毎日・DAS学生デザイン賞は、毎日新聞社と総合デザイナー協会(DAS)が主催するデザインコンペティションであり、大学、高等専門学校、専修学校専門課程の大学生を対象に、デザイン界の人材を発掘育成することを目的として開催されています。

以下、山岡さんの作品コンセプトです。

私の考える新たな都市の空間性とは、人々が建築の機能や用途に縛られず、各々が自由に選択し活用していく建築のことを指します。この建築には、利用者の数だけ中心が存在し、その利用者は人間に限定されたものでもありません。建築空間から人々が自分自身で使い方や目的を定め、自由に使いこなしていくことで、一つの総体でありながら、沢山の中心が存在するような建築となりました。まさに都市の中にある森のような建築空間です。

第54回毎日・DAS学生デザイン賞
 大学生の部 入賞者はこちら

<https://das.or.jp/?p=10976>

詳細についてはこちら

<https://das.or.jp/?p=10722>



卒業生インタビュー



株式会社大林組
大木 結衣(旧姓 深谷)
2018年3月 工学部 建築学科
建築専攻卒業
2023年7月現在 株式会社大林組
入社6年目

企業 DATA

株式会社大林組

〒108-8502

東京都港区港南2丁目15番2号

創 業 1892(明治25)年1月

設 立 1936(昭和11)年12月

代 表 者 代表取締役社長 兼 CEO 蓮輪 賢治

資 本 金 577億5,200万円

従業員数 単体:9,134人(2023年3月末現在)

事業内容 国内外建設工事、地域開発・都市開発・
その他建設に関する事業、及び
これらに関するエンジニアリング・
マネージメント・コンサルティング
業務の受託、不動産事業 ほか

—— 現在勤務している企業を紹介してください。

「MAKE BEYOND つくるを拓く」で佐藤健さんなどがCMをしている大林組です。

創業130年の歴史のなかで培われた技術を活かし、人々が生活していくうえで必要不可欠な社会基盤、都市の象徴となる建造物、さらには都市全体の未来を創造する都市開発などを手がけています。

—— 現在従事している仕事内容を教えてください。

工場の建設に携わっています。
工程・品質・安全を遵守し日々、職人さんと会話しながら工事を進めています。

職人さんたちがスムーズに仕事ができるよう図面や現場の確認、作業方法の検討などを行い、高品質な建物をお客様に引き渡せるよう日々努力しております。

—— 現在のお仕事におけるやりがいを教えてください。

目の前で建物が日々出来上がっていくことです。

自分の考えたやり方・日程で物事が進んでいき、形となっていく様は本当にやりがいを感じ、とても楽しいです。

たくさんの仲間と協力し、難しい条件をクリアしながら建物は建っていきます。ひとりではできないことも、仲間と協力すると楽しくできることを日々実感しています。

—— その企業に就職したきっかけ、経緯を教えてください。

もともと父親が建設業界で現場監督として働いていて、その背中に憧れました。

就活の中で、いろいろ調べていくうちに、大林組は女性社員がたくさんいて、結婚や出産をしたあとも継続して働いている方が多く、その環境であれば、安心して働くことができると思いました。

—— 大学での学びはどのように生きていますか？

仲間と協力して課題に挑戦するなかで、チームとして物事をやり遂げる力は付いたと思います。たくさんの課題を通して、協力することの難しさや楽しさを学ぶことが出来ました。現在では多業種の職人さんたちと、大学時代の経験を生かして日々現場の課題に取り組んでいます。

また、設計課題では自分の考えをカタチにする、難しさや達成感を味わうことが出来ました。これがきっかけで、現場監督として誰かの思いをカタチにしたいと考えるようになりました。

—— これからの目標を教えてください。

将来は現場所長になりたいと思います！自分らしさを生かし、今後もこの会社で頑張りたいです！

また、建設業全体で女性が活躍できるように、何か活動できればと思います。

—— 在学生に一言お願いします。

実は大学時代の同級生と結婚をしました。大学時代はたくさんの人と出会い、勉強だけでなくいろいろなことを学ぶことができました。当時の仲間は今でも仲良く、切磋琢磨しています。勉強ももちろんですが、出会いを大切に、いろいろなことに挑戦してください!!

「DAIDO CAMPUS」の表紙を 情報デザイン学科 3年 筑はるさんがデザインしました

「変化・成長」をテーマに表紙のデザインを制作しました。学生が一步步を進め成長している様子を表しています。今までの表紙にないポップな感じを表現するために線の太さや色使いを工夫しました。浮いている地面の上にあるものは今まで積み重ねてきた物やこれから行くであろう仕事先、これから勉強することを表しています。また階段のように決まっている道ではなく浮いている地面にすることにより、将来選べる道は沢山あるという意味を込めました。

テーマに合ったデザインを考えるのはとても難しかったですが、制作自体は楽しかったです。今回の貴重な体験を今後活かせるように頑張りたいです。

